

# 東日本大震災災害活動報告

宮城県名取市消防団 団長 昆布谷 清太郎



平成23年3月11日午後2時46分に発生した大きな揺れの中、とうとう来た「宮城県沖地震」と頭の中をよぎりました。しかしその揺れは違っていました。これまでに経験したことのない激しい揺れが長く続き、その直後に東北（宮城県）沿岸部に大津波警報が発令され、避難指示が出されました。地震被害の対応、そして大津波警報の対応に追われる中、襲来した巨大津波は、沿岸部地域にあった赤貝の産地で有名な閑上と仙台空港の東隣の北釜の2つの（集落）を全てのみ込み、そこに住む多くの住民にも甚大な被害をもたらしました。

津波による被害は、死者911名、行方不明者70名、建物の被害は、全壊3,738棟、大規模半壊344棟、半壊1,008棟、一部損壊10,161棟にも及ぶ未曾有の大震災となりました。津波による浸水面積は27㎏であり、名取市の総面積の28%が浸水しました。

消防団においては、消防団車庫詰所6棟が津波により流失、車庫が3棟水没、小型動力ポンプ積載車7台が大破し、名取市消防団発足以来初めての殉職者16名を出したことはとても残念でなりません。また、水防倉庫2棟も流失しました。

火災は、災害発生から3月中で12件発生しており、建物火災が4件、その他瓦礫火災が8件発生しています。11日に発生した建物火災には、道路が津波で水没していたり、瓦礫の山と化していて



北釜地区の航空写真

火災現場には近づくことすらできずただ見守るしかなく、歯痒い感じに思いました。

消防団員は、地震発生後には各詰所に参集し担当地区の警戒巡回活動や被害状況調査などの情報収集を実施。また、沿岸部の消防分団は、大津波警報に伴い住民への避難広報や避難誘導を行いました。津波発生後に消防本部に集合した消防団幹部団員に、被災地で浸水し孤立した住民の救助を指示し活動にあたらせました。

2日目を降の活動は、消防署隊や自衛隊・緊急消防援助隊と協力して、まだ生存しているであろうという望みを持ち、行方不明者の捜索・津波浸水により孤立してしまった住民の救助活動を実施すると共に、孤立した避難所からの避難者を小型



閑上地区の航空写真



閑上町内の被災状況



北笠地区被災状況

動力ポンプ積載車でのご搬送に従事しました。また、津波によって発生していた火災の消火作業も、自衛隊による道路の瓦礫撤去が進むにつれて活動を行うことができました。

しかし、捜索活動には、重機等の機械が使えず人力による捜索に頼らなければならない現場もあり、個人装備品の不足や、防護・安全管理に不安を感じられるところもありました。

消防団員の活動に従事する時間が増えるにつれ、一刻も早く休養を取らせるために、指揮本部と調整しながら各分団においてローテーションを組み、捜索活動に従事しました。また、大震災から60日目には自衛隊と連携して、被災地を200メッシュに区切り徹底的に捜索を行いました。

今回の東日本大震災において、幹部団員そして、将来を有望視された若手団員16名の尊い命が奪われたことは、名取市消防団にとっては大変な痛手であり残念でたまりません。

消防団員としての使命感に満ちた活動は我々の誇りであり、頭の下がる思いであります。

消防は、その性格上、まさに危険が迫っている



捜索活動する団員・援助隊員



津波により流失した消防団車両

現場において、住民を見放し我先に安全な場所に避難することはできません。そこが消防の難しいところでもあります。いかなる状況においても、命を落とすことのないよう徹底した検証を行い、安全・確実な消防活動がおこなわれるようその体制を確立し、団員を守ることが、今回の大震災で得た最も重要な教訓であると痛切に感じております。

現在、被災した消防団員は数箇所の仮設住宅に入居し避難生活を送っておりますが、地域住民の生命、身体、財産を災害から守るといふ、強い消防精神を持ち、消防団活動に従事しております。

名取市消防団と同様に被災されました消防団員の皆様におかれましても、まだまだ厳しい環境が続くものと思いますが、団員皆様が一致団結して、地域住民の安全安心を守って行こうではありませんか。

最後になりますが、全国から様々な御支援、御協力をいただき衷心より御礼を申し上げまして、活動報告とさせていただきます。



消火活動にいけなかった現場周辺